

### 行動計画シート(下半期)

行 動 主 体 名	<b>産業政策課</b>
課・室・施設長名	<b>二ノ方 洋</b>
① 組織の使命	<p>機構改革により10月1日付けで産業経済部の中に産業政策課の新設課であり、職員体制は課長以下3名である。</p> <p>課内の組織の使命は、企画総務係を中心に、部に係る総合的な調整を図りながら、部内各課と更には各支所との連携を常に取りながら共通した事務の効率化を図る。</p>
② 現状認識及び中期展望 (向こう3年内)	<p>平成18年度予算編成においては、自立経営型予算編成に向けて部内査定となる「管理的経費」「一般行政経費」の査定。</p> <p>新たな事務分掌として、特産品等の開発に係る事務が加えられ関係各課と調整を図りながら、総括調整を図る。</p>
③ 事務改善に関する行動計画	部内課長会議については、資料が多いことから再生コピー紙の活用を図る。
④ 接遇改善に関する行動計画	他課及び各支所からの問い合わせについては、迅速に即答が出来るよう課内の意思統一を図る。
⑤ 経費節減に関する行動計画	消耗品 (特にファイル) 等は、共通文書の作成で、経費削減を図る。 毎週水曜日は、ノー残業デーの確実な実施
⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価	平成17年10月新設
⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方	<p>産業経済部の部内総括課として、極力時間外については創意工夫しながら減らす体制づくりを目指します。</p> <p>各課からの報告文書については、期限内に報告がなされるよう奨励する。</p> <p>毎週部内課長会議後、課内会議を開催し、部内及び課内の意思統一を図る。</p> <p>各課からイベント等の要請があった場合は、積極的に要員として応じたい。</p> <p>平成18年度予算編成に向けて、甌地域の現状把握の必要性有り。</p>
⑧ 下半期及び17年度を通して具体的な取組の自己評価	部内会議資料は両面刷りのため再生コピー紙の活用はできなかった。 待遇改善については、他課及び各支所からの問合せについて迅速に対応した。毎週水曜日は、ノー残業デーを実施した。

## 行動計画シート(下半期)

行 動 主 体 名	<b>農政畜産課</b>
課・室・施設長名	<b>郡山 毅</b>
① 組織の使命	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農政畜産課は、地方自治法第158条の規定により、市長の権限に属する事務のうち、農業・園芸・畜産の振興等に関する事務を分掌させるために設置された内部組織である。</li> <li>・ 農政畜産課の使命は、第1次産業の主たる従事者である農畜産業の振興を図るために必要な施策を立案の上、実施する。</li> <li>・ 当該施策については、農家所得の推移はもとより、認定農業者数・振興作物の販売状況・農業生産法人の設置数等に評価できる。</li> </ul>
② 現状認識及び中期展望 (向こう3年内)	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耕地面積 5,540㍓ (総土地面積 683.44km<sup>2</sup>)</li> <li>・ 農家数 6,551戸</li> </ul> <p>(中期展望)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の新食糧・農業・農村基本計画等に基づき、新規就農者等を育成する等担い手対策を実施し、農業委員会・農業公社・農協と連携して、農地の流動化を推進すること等により、荒廃農地の有効利用を促進する。</li> </ul>
③ 事務改善に関する行動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本庁・支所間における事務処理体制の確立 国・県の補助事業等に関する本庁及び支所間における事務手続きについて必要な見直しを行い、決裁に要する時間を短縮する等効率的かつ効果的な事務処理体制を確立する。</li> <li>2 共有文書の整理 農政畜産課に送付される文書等について、それぞれの用途・目的ごとに文書整理棚を指定し、文書の共有化を推進する。 ⇒ 文書保管スペースの有効な確保</li> <li>3 情報の共有化 農政畜産課の職員は、それぞれ農家との調整があるため、朝礼等を実施することは困難であるが、月に3・4回は全体会を開催し、情報を伝達すること等により、情報の共有化を図る。</li> </ol>
④ 接遇改善に関する行動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 あいさつの励行 農政畜産課の職員は、関係農家等と協議することが多いので、接遇は重要事項の一つである。また、「あいさつ」は、職員の健康管理に係るバロメータでもある。 そこで、出勤時・退庁時等「元気のあるあいさつ」を励行する。</li> <li>2 服装の指導 農政畜産課では、農家指導等のために現地に出向く事が多いので、相手方の理解の得やすい服装とする。</li> </ol>

<p>⑤ 経費節減に関する 行動計画</p>	<p>1 食糧費・報償費の削減 農政畜産課及び産業課の職員は、J A、農家等が開催する会議・行事等に出席が求められ、必要に応じて焼酎等を提供している。 食糧費又は報償費により支出すべき会合等を整理し、経費の縮減を図る。</p> <p>2 文書管理の徹底 課内共有文書、係内共有文書等を整理することにより、文書の保管スペースを確保する。 また、担当者が不在でも、市民からの質問等に対応できるよう、各担当の文書についても整理するよう指導する。 一方、課内文書等裏面コピーで対応できるものについては、裏面コピーを徹底する。 これにより、コピーの削減等が図られる。</p> <p>3 農政畜産関係補助金のスクラップ・アンド・ビルド 農政畜産関係補助金については、「バラマキ」等との批判があり、国・県においては、廃止又は削減とされている。 市の場合には、直接農家と対応していることから廃止又は削減とすることは難しいが、その効果等について分析する必要がある。 それぞれの補助金の内容及び効果等について分析し、スクラップ・アンド・ビルドに努める。</p>
<p>⑥ 上記③～⑤に対する 上半期自己評価</p>	<p>③について 用途・目的ごとに文書整理書棚を指定し、情報の共有化については、毎週係長以上の調整会議を行い、職員への周知に努めている。</p> <p>④について 職員間はもちろんのこと、関係農家等との協議の場でも率先して、声かけするよう、また、服装についても、不愉快を与えないよう心掛けている。</p> <p>⑤について 食料費・報償費の削減について、平成17年度で本庁に一括予算措置して、支所等からの文書等で判断しながら支出し、報償費についても同様にしながら減額に努め、平成18年度の予算につなげるようにしている。 補助金については、平成17年度については、合併協議を踏まえて予算を作り実施中である。また、各種団体等に調査等を実施しながら内容及び効果を検討中である。</p>
<p>⑦ 上半期の評価を踏まえた 下半期の進め方</p>	<p>一定の成果等のある事項等については、尚一層の取り組みを推進し、不十分な事項等は、内容の再検討を行い、計画を進める。</p>

<p>⑧下半期及び17年度を 通して具体的な取組の 自己評価</p>	<p>下半期には、農業分野における国の経営所得安定対策の発表やポジティブリスト制度等の推進について急激に進行されたこと等から、本来の業務との調整に混乱を来たした面もあったため、④の挨拶の励行や適時な服装等はほぼ予定どおり推進できたものの、上半期に比べ③・⑤の取り組みは、若干、希薄になった点も否めない。「数値的には、まだ把握できない。」</p> <p>これらの点を反省し、18年度においても、職員間での意識高揚を図りながら、引き続き実践していきたい。</p>
--	---

(農政畜産課)

### 行動計画シート(下半期)

行 動 主 体 名	<b>林務水産課</b>
課・室・施設長名	<b>大園 俊秀</b>
① 組織の使命	<p>広大な森林資源を保有する本市において、木材・特用林産物を生産する</p> <p>健全な森林育成，森林の持つ公益的機能の向上の構築を目指した森林整備並びに安心・安全な林産物生産の体制づくりを推進していくこと。</p>
② 現状認識及び中期展望（向こう3年内）	<p>本市森林整備計画(平成17年～平成27年)に基づき，国県の各種補助事業により森林組合等と連携を取り，森林・竹林の管理・育成に取り組んでいるところであるが，イノシシ等の有害鳥獣による被害が増加してきている。</p> <p>この有害鳥獣の捕獲は，猟友会及びわな捕獲免許所有者に捕獲許可証を交付し捕獲しているが，被害は減少傾向にない。</p> <p>減少傾向にない状況として，有害鳥獣自体の増加（特にタヌキ，ノウサギ等は捕獲者が少ない）と捕獲者の高齢化があるので，捕獲わな，捕獲柵等の改善に取り組む必要がある。</p>
③ 事務改善に関する行動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現在，6猟友会（川内，塔之原，市比野，入来，東郷，祁答院）が存続しているので，薩摩川内市猟友会として統合する。</li> <li>2 補助金交付事務の一本化。</li> </ol>
④ 接遇改善に関する行動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市民からの捕獲要望に対する有害駆除隊員への即時要請。</li> <li>2 捕獲行動の確認</li> <li>3 市民への結果報告</li> </ol>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 猟友会統合により，一斉駆除実施が可能になり駆除経費等の削減につながる。</li> </ol>
⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価	<p>捕獲要望に対する捕獲依頼及び捕獲行動の確認の確認については，即時対応しているが，捕獲結果についての依頼者への報告がされていない。</p> <p>また，薩摩川内市猟友会を発足することになっているが，各猟友会の発足事情があるため一本化が進んでいない。</p>
⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方	<p>①市民への結果報告については，捕獲状況を速やかに報告する。②6猟友会の合併については，各支所を通じて合併に支障をきたしている事情等を把握したい。</p>
⑧ 下半期及び17年度を通して具体的な取組の自己評価	<p>6猟友会会長で協議を行なったが，当面一本化は難しい状況であるので，協議の回数を重ね一本化実現を図りたい。</p>

## 行動計画シート(下半期)

行 動 主 体 名	<b>商工振興課</b>
課・室・施設長名	<b>岩下 満志</b>
① 組織の使命	<p>商工会議所・商工会と連携し、経営体質の強化を図るとともに、TMOを中心とした中心市街地の活性化や地域を支える商業環境の向上に努める。</p> <p>また、鉄道・バス・航路等の快適な交通ネットワークの構築を図り、利便性の向上に努める。</p>
② 現状認識及び中期展望（向こう3年内）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商工会合併の推進</li> <li>2. 中心市街地の活性化（TMO事業の推進）</li> <li>3. 公共交通網の構築</li> <li>4. 甌島航路の川内港寄港化</li> <li>5. 自動車運送事業の安定経営</li> </ol>
③ 事務改善に関する行動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 職員の事務量を随時確認し、係を超えての事務担当など均一的な業務量に努める。</li> <li>6. データベース化を図り、事務の効率化に努める。</li> <li>7. 市営横馬場駐車場の指定管理者制度導入</li> <li>8. 検討事項の早期終結に向けた事務処理の推進</li> </ol>
④ 接遇改善に関する行動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コール3回までを目標に、迅速に電話をとるようにする。</li> <li>2. あいさつの敢行</li> </ol>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 庁舎内における階段使用の敢行</li> <li>● 晴天時の半径1km以内の出張は自転車使用を敢行</li> <li>● 12:00～13:00までの消灯による節電</li> </ul>
⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価	<p>多忙な時期には係を超えて、連携を図り事務のスムーズな処理に努めた。横馬場駐車場に指定管理者制度導入のための条例改正を行い、18年4月から指定管理者を導入する予定である。検討事項等について随時進捗状況等の確認を行っている。</p> <p>職員不在の電話も課内職員が率先して取るようになった。また、階段使用や消灯により節減にも努めた。</p>
⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方	<p>検討事項については、関係機関等との調整など早期終結が難しい案件もあることから、随時連絡を取り合い早期終結に向けて努力していく。</p>

<p>⑧下半期及び17年度を 通して具体的な取組の 自己評価</p>	<p>職場の清掃等の基本的なものからそれぞれの担当又は係内の業務でない事柄についても、課全体での取り組みや協力がなされ個人個人の認識とその行動が合致した。</p> <p>検討事項等については、早い問題解決を念頭に関係機関との協議を行うとともに、課内の情報共有の中で業務が行われ情報管理にも努めることができた。</p> <p>階段・自転車の使用，消灯による節電は、「s m a r t 作戦」の行動計画であるという課内職員同士の声かけで省力化が図られたと考えている。</p>
--	--

### 行動計画シート(年度振返り)

行 動 主 体 名	企業・港振興推進室
課・室・施設長名	坂元 安夫
① 組織の使命	工業については、既存企業の活性化を図るため、各種制度、施策を有効に活用し、地場産業の育成を図る。また、企業の誘致・育成を図る。 <del>雇用・就業環境については、各種制度や施策・労働情報等の提供に努める。</del> 川内港については、港湾機能の充実を図るとともに、貿易、流通の拠点として韓国釜山との定期コンテナ航路の安定的継続を図る。
② 現状認識及び中期展望 (向こう3年内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業の振興</li> <li>・企業誘致</li> <li><del>・雇用・就業環境の充実</del></li> <li>・川内港振興</li> </ul>
③ 事務改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致に係る企業訪問について、事前に情報収集を行い訪問計画を立て、効率的かつ効果的な訪問を実施する。また、川内港の集荷に係るポートセールスとの連携も図りながら効果的な訪問を実施する。</li> <li>・韓国コンテナ航路について、航路の安定的継続を図るため、官民一体となり効果的なポートセールス等を展開し、当面の目標としているコンテナ取扱量月間200TEU(実入り)を通年通して達成出来るよう努める。</li> <li><del>・勤労者福祉施設について、利用状況や管理状況を分析し、指定管理者制度導入を検討する。</del></li> </ul>
④ 接遇改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地等の相談・企業訪問・ポートセールス等人に接する機会が多い部所であり、接客マナーには細心の注意を払い、対応は誠心誠意取り組む。</li> <li>・接客については、まず、受容・傾聴に努め、相手の意向を十分把握した上で、説明等を行う。</li> </ul>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li><del>・勤労者福祉施設について、指定管理者制度を含めて施設委託に関する経費の再検討を行う。</del></li> <li>・企業誘致に係る企業訪問及び川内港の集荷に係るポートセールスについて、連携を図り効果的な訪問を実施する。</li> </ul>
⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価	川内港の利活用の一環として、薩摩川内港コンテナフレートステーション・鹿児島谷山コンテナフレートステーションの開所及び薩摩川内港ポートセミナー2005を開催したところであり、川内港のPRが図られ成果があったと考える。また、下半期における定期コンテナ航路のコンテナ取扱量については、7月以外は当面の目標である月間200本の取り扱いを達成しているところであり、官民のポートセールス等の取組みが成果として徐々に表れているものと考えている。
⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方	コンテナ貨物の取扱量について、通年を通して目標を達成出来るよう更に官民一体となったポートセールスに取り組み、航路の安定的継続を図る考えである。また、リーファーコンセントが設置予定であり、冷凍品等の貨物を取扱うことが可能となるので、そのような貨物の確保に努める考えである。



<p>⑧下半期及び17年度を 通して具体的な取組の 自己評価</p>	<p>平成17年度のコンテナ貨物の取扱量は、年度計で4,783TEU（対前年度1.86倍）、うち実入り2,749TEU（対前年度1.93倍）を記録し、7、12、1月を除き目標の実入りで月間200TEUを達成した。</p> <p>また、リーファーコンセントについては、平成17年12月から使用可能となり、冷凍サバ等15TEUを輸出している。これらの成果は、企業誘致に係る企業訪問と連携した川内港の集荷に係るポートセールスの結果が表れてきたものとする。</p> <p>また、工業については、薩摩川内市に立地した企業の研修として「立地企業研修会（講師：三菱商事顧問古川治次氏）」を開催したところ、56団体75人の参加があった。この研修会の開催により、会員相互の情報交換・交流懇親の場を提供することによって、今後の本市経済の浮揚に多大な成果が得られたと考える。</p> <p>なお、労働者政策及び勤労者福祉施設に関する事務（二重取消し線の箇所）については、平成17年10月1日に商工振興課へ移管した。</p>
--	--

## 行動計画シート(下半期)

行 動 主 体 名	<b>耕 地 課</b>
課・室・施設長名	<b>有西 庸郎</b>
① 組織の使命	農地・農業用水は、農業生産にとって最も基礎的な資源であり、良好な営農条件を備えた農地及び農業用水を確保し、これらの有効利用を通じて、農業の生産性の向上と食料供給の確保を図る。そうするために、農業基盤整備を充実する。また、快適で安全な農村の暮らしの実現に向けての環境整備を図る。
② 現状認識及び中期展望 (向こう3年内)	農業・農村は、農村地域における高齢化、過疎化、混住化等が進む中集落機能の低下や耕作放棄地の増加、環境・農業用水等の適切な維持・管理に支障が主じて、また、台風や集中豪雨による大規模災害の発生時等で困難な事態に直面している。「環境・地域資源の適切な保全管理」「食料供給基盤の確保」「自然豊かな田園空間の形成」等の実現において、農業用水路の整備、農村公園の整備、水環境整備、ほ場整備、老朽ため池の整備等を図り、農業農村整備事業の果たす役割は、大きいので、農業生産基盤と農村の生活環境の一体的、効率的な整備に努める。
③ 事務改善に関する行動計画	合併で、行政区域が広範囲になったことで、かねてから巡回し、危険箇所を事前に把握しておくことで、豪雨等災害が発生した場合は敏速に行動対応出来る。また、日ごろの点検・結果を記録する。
④ 接遇改善に関する行動計画	朝の「おはようございます。」帰庁時の「お疲れ様。」の声かけをする。市民が来庁され、または、電話等で依頼があった場合は、丁寧に敏速に対応する。また、出来るものは敏速に対応する。
⑤ 経費節減に関する行動計画	天神池公園の浄化装置は、春・夏場（4月～9月は水温が高く、水が腐れやすい時期であるので、24時間稼働するが、それ以外の時期は、状況に応じて稼働するようにし、光熱水費を節減するようにする。 耕地課職員で天神池公園のトイレの掃除や草刈をし、また、広域農道の草刈・ちり、缶拾いをし、草刈作業等の経費を節減する。 陽成トンネルの歩道部分の蛍光灯を全部点燈しないで、安全面を考慮しながら、光熱水費を節減する。
⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価	危険ため池を川薩耕地事務所、地元土地改良区と第1回目の点検を雨季前（5月中旬）、2回目を6月中旬に実施し記録した。第3回目を10月下旬予定。 朝の「おはようございます。」帰庁時の「お疲れ様。」の声かけは耕地課職員一人一人が毎日自然と心がけてやった。電話等での依頼は丁寧に敏速に対応した。出来るものは敏速に対応した。 耕地課職員で天神池のトイレの掃除や草刈を随時行なった。また、7月16日（土）広域農道の草刈・ちり、缶拾いを業者の協力をいただきながらボランティア作業として行なった。 陽成トンネルの歩道部分の蛍光灯について、安全面を考慮しながら、部分点燈とし、光熱水費を節減した。

<p>⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方</p>	<p>農業施設（危険ため池）点検を川薩耕地事務所，地元土地改良区と10月下旬に実施し，危険箇所記録し農業施設整備に努める。</p> <p>朝の「おはようございます。」帰庁時の「お疲れ様。」の声を引き続きやっていき接遇改善に努め，又，電話等で依頼のあった場合は，丁寧に敏速に対応し，出来るものは敏速に対応するように努める。</p> <p>天神池公園の浄化装置は状況に応じて稼働し，トイレや草刈は耕地課職員でやり，経費節減する。</p> <p>陽成トンネルの歩道部分の蛍光灯は全部点灯しないで，安全面を考慮しながら，部分点灯して光熱水費の節約に努める</p>
<p>⑧ 下半期及び17年度を通して具体的な取組の自己評価</p>	<p>電話を受けるときは，「耕地課▲▲です。」と課名及び氏名を名乗り用件を聞くように心がけるように努めた。常に，危機管理意識を持って現場管理に努め，農地及び農業用施設の保全に努めた。</p> <p>また，天神池の浄化装置の運転時間を11月から1時間短縮し，光熱水費の節減を図った。（水温が低下し，水質が安定した。）天神池のトイレの清掃については，上期に引き続き耕地課職員で週1回程度実施し，草刈についても随時実施した。また，広域農道のトンネルの照明については，安全を考慮しながら，部分点灯を実施し光熱水費の節減に努めた。</p> <p>その他，市民からの要望等への対応については，迅速に対応するとともに早急に対応すべきものは，早急に対処した。</p>

(耕地課)

## 行動計画シート(下半期)

行 動 主 体 名	<b>観 光 課</b>
課・室・施設長名	<b>五反田 省一</b>
① 組織の使命	市内の様々な観光資源を有効に活用して観光振興を図り、観光関係団体との連携を図りながら、地域の活性化及び文化の向上に尽力し、観光情報の効果的な提供に努める。
② 現状認識及び中期展望 (向こう3年内)	豊富な観光資源を活かし、自然環境の保全に配慮しながら、九州新幹線の全線開業や南九州西回り自動車道の開通を活かした交流人口の拡大を図り、海、山、川、湖、温泉や歴史的遺産、文化財など新市内の様々な観光資源を有機的にネットワークさせた観光ルートの形成を進め、滞在型保養観光都市の形成をめざす。
③ 事務改善に関する行動計画	観光振興は、イベント開催が主な事業であるが、平成17年4月1日の観光協会合併を機に各種イベントを委員会方式にして各地域の委員が自主的に企画し、本庁・支所職員は助言をする形でイベント開催ができるようにする。
④ 接遇改善に関する行動計画	今年度の事業で観光ガイド育成事業を計画している。観光客のニーズにあったボランティアガイド育成を図るとともに、職員の観光案内に対する意識の高揚・接遇の改善にも鋭意努力する。
⑤ 経費節減に関する行動計画	観光情報のためのポスター、パンフレット等を本庁で一括作成し、PR活動も本庁職員で行う。
<b>⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価</b>	甌島の大自然に触れるイベントとして第一回甌ファミリーフィッシング大会を薩摩川内市観光協会の実行委員会での取り組みとして実施した。また、甌海峡をウインドサーフィンで渡る甌海峡横断レースを開催し、本庁、支所の職員の連携を図りながら開催し、両イベントとも成功したと評価する。
<b>⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方</b>	新規のソフト事業として、観光ルートコンテストをはじめ、観光ボランティアガイド育成事業及び駅前イルミネーション装飾事業を観光協会の主催で開催する。また従来の薩摩川内はんや祭りとおあわせ、はんや全国大会を開催し、本市のPRに努める。
<b>⑧ 下半期及び17年度を通して具体的な取組の自己評価</b>	はんや全国大会を薩摩川内はんや祭りの前夜祭として開催し、ホテル旅館の活性化につながり観光の振興につながった。また観光ルートコンテストやボランティアガイド育成事業も予定通り終わり今後の利活用に期待が持てる。駅前イルミネーション装飾事業ははじめての試みであったが、街が活性化し、薩摩川内市のPRに十分役立った。

### 行動計画シート(下半期)

行 動 主 体 名	<b>薩摩川内市農業委員会事務局</b>
課・室・施設長名	<b>鈴木 和彦</b>
① 組織の使命	<p>公的に認められた農業・農業者の利益代表機関である。</p> <p>農地の権利調整や農業振興についての対策や農業に関する各種課題等について意見の公表や建議, また諮問への回答など農業・農業者に関する様々な事項にわたる広範な役割を有している。</p> <p>農業者の高齢化や担い手不足等による遊休農地の拡大等により安定的な農業経営が困難な状況となっている。農業生産性の向上を図る上からも, 農業委員等による農地流動化の推進を中心とした活動が求められている。</p>
② 現状認識及び中期展望 (向こう3年内)	<p>職員が特定業務に専従化しており, 職員の休暇等のため, 市民からの相談に応じられないケースが多々見受けられる。</p> <p>また, 支所においては, 人事異動等により農業委員会の法知識や手続きの習得に長い時間日数を費やしてしまい, 市民に対する十分な説明が欠落する恐れがある。</p>
③ 事務改善に関する行動計画	<p><b>業務フローの作成及び支所担当職員との定期的学習会の励行</b></p> <p>業務フローを作成し, 当該資料を活用し, 支所配置の職員に対する定期的学習会を行うことで業務への早期習得が期待される。</p>
④ 接遇改善に関する行動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 来客への声かけ運動の徹底</li> <li>2 来客をできるだけ待たさない。調査等で時間を要する場合, 理由を説明し理解を得ることの徹底</li> <li>3 誠意ある接客行動の励行</li> </ol>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 <b>パソコン電源の節電</b>…1 時間を超える会議の場合, 電源を落とす運動の励行</li> <li>2 <b>パソコン内でのデータ確認</b>…印刷する前にパソコン入力時点での修正ヶ所等の確認励行</li> <li>3 <b>コピー印刷の節約</b>…枚数の嵩む印刷は, パソコン出力プリンター印刷で節約の励行</li> </ol>
⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価	<p>③に掲げた「係内事務分掌の定期的組替えの励行」は市民サービスの低下を招く恐れから実行出来なかった。</p>
⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方	<p>前期に引き続き, スマート作戦の行動指針を基に, 行動シートを実行していきたい。(職員全員で確認した。)</p>
⑧ 下半期及び17年度を通して具体的な取組の自己評価	<p>③の業務フローの作成は達成出来なかった。事務効率上必要である。18年度に引継ぐ。④は90%以上達成できた。過剰に対応する接客があるのでスマート化を図る。⑤は一丸になって履行したが, 金額に換算は困難。</p>